

2004.11.12

第一次・第二次新潟県中越地震被災地支援活動全体報告

東京災害ボランティアネットワーク
事務局 福田信章

<<支援決定に至る経緯>>

10月23日の午後5時56分に発生した新潟中越地震。東京災害ボランティアネットワークは翌24日に緊急の対策会議を開き、被災地支援を決定しました。とても迅速に支援決定の流れが作れたわけですが、実は、迅速に決定できたのには理由がありました。

10月20～21日に日本全国を襲った台風23号の被災地支援を展開していた東災ボと関係のある「震災がつなぐ全国ネットワーク」から10月22日夕に「支援の手が足りない。東災ボでも支援を検討してほしい」という旨の連絡を受け、10月24日に支援に関して協議をする予定だったのです。

結果的には連絡があった翌日に新潟中越地震が発生し、急遽、台風23号被災地支援と新潟中越地震被災地支援を検討し、両被災地を支援するに至りました。

しかしながら、台風23号の被災地は岐阜県や京都府、兵庫県、四国地方と、東京から支援するには物理的な距離が離れていたこともあり、具体的な支援方法ではなく、間接的・後方的な支援に留まらざるを得ず、東災ボ参加団体の中で、全国的なネットワークを持っている団体に、被災地近隣地域からの支援を要請するようにとお願いする形での支援となりました。

第一回緊急対策会議(2004年10月24日)

出席者：東京災害ボランティアネットワーク事務局	：上原 / 福田
東京ボランティア・市民活動センター	：安藤 / 清水
連合東京 VST	：真島 / 吉村
ふるさとの会	：成清
(社)シャンティ国際ボランティア会	：伊藤 / 小野
東京 RB	：山田
A-yan Tokyo	：植草

オブザーバー参加

神奈川災害ボランティアネットワーク	：植山氏
震災がつなぐ全国ネットワーク	：村井氏
(社)日本青年奉仕協会	：斉藤氏

<<緊急協議>>

10月24日の緊急対策会議上では、現地の情報もまばらで、まだまだ被災状況がつかめていなかったこともあり、2日後の10月26日に改めて緊急会議を開催し、具体的な支援方法、支援拠点を決定することになりました。

当面は、東京からの交通が可能な「新潟県十日町市」を中心に、支援方法としては、被災地で立ち上がるであろう「災害ボランティアセンターの支援」とともに、「被災地域の住民と連携した支援」の両方を考えていくことが確認されました。

第二回緊急対策会議(2004年10月26日)

出席者：東京災害ボランティアネットワーク事務局	：上原 / 福田
東京ボランティア・市民活動センター	：斉藤
東京 YMCA	：山添
東京都生協連	：藤野
連合東京 VST	：真島
ふるさとの会	：成清
(社)シャンティ国際ボランティア会	：茅野 / 伊藤
三宅島災害・東京ボランティア支援センター	：卜部
東京 RB	：山田
A-yan Tokyo	：植草

<<先遣隊派遣>>

10月26日夜には東京災害ボランティアネットワーク参加団体の A-yan Tokyo 植草が新潟県十日町市の災害ボランティアセンター立ち上げ支援に、10月27日昼には連合東京 VST 真島、長谷川、吉村が被災地域と連携した支援を展開するための拠点作りを構築するために、被災地へ先遣隊として派遣しました。

また、東災が参加団体の「東京ボランティア・市民活動センター」が、東京都社会福祉協議会として被災地支援を検討するため新潟県社会福祉協議会へ向かい、東京都生協連が、新潟県総合生協などと連携しながら支援物資配布を中心とした支援を決定し、「日本赤十字社東京都支部」が日本赤十字社の一員として被災地支援を決定し、(社)シャンティ国際ボランティア会が、曹洞宗全国青年会とともに被災地支援を決定し、「SeRV 東京」が、SeRV 北陸、SeRV 長野などと連携して被災地支援の協議を始め、「SHARE = 国際保健協力市民の会」が新潟県長岡市の関係団体とともに被災地での支援を決定しました。さらに、東災ボと関係の深い国際学生ボランティア協会(IVUSA)が台風 23 号被災地支援とともに、新潟中越地震被災地支援を決定しました。

東京災害ボランティアネットワーク参加団体で、独自に新潟中越地震支援を開始した主な団体（活動内容は、現地調査から募金活動まで多岐にわたっている）

東京ボランティア・市民活動センター

日本赤十字社東京都支部

東京都生活協働組合連合会

連合東京 VST

(社)シャンティ国際ボランティア会

SeRV 東京

SHARE = 国際保健協力市民の会

東京 YMCA

【他にも数多くの団体が支援活動を始めた可能性はあります】

<<個人ボランティアへの対応>>

先遣隊からの報告を受けるとともに、その報告をメールニュースとして東京災害ボランティアネットワーク参加団体、および関係団体に送信するとともに、事務局もインターネットを駆使しながら独自で情報収集・発信をおこなってきました。

東京災害ボランティアネットワーク-新潟中越地震情報 1～15

10月25日から東京災害ボランティアネットワークメールニュースとして、不定期で、東災ボ参加団体、および関係団体、計 200 団体・個人へ配信中

この間、東災ボ宛てに数多くの個人ボランティアから支援の問い合わせがありました。新潟県中越地震の被災地では、大きな余震が幾度となく繰り返されていること、住民の避難勧告が解除されていないこと、そして、先遣隊からの「まだ十分に災害ボランティアセンターが立ち上がれる状況ではない」旨の報告を受けていたことなどから、個人ボランティアからの申し出には、台風 23 号の被災地である兵庫県豊岡市災害ボランティアセンターを通じ、ボランティア支援をしていただけるよう案内をさせていただきました。

個人ボランティアの申し出：当面的間、台風 23 号被災地である兵庫県豊岡市災害ボランティアセンターを案内

<<先遣隊からの報告>>

10月27日昼に、被災地域と連携した支援を展開する拠点作りを構築するために、被災地に入った連合東京 VST 真島、長谷川、吉村は、東京災害ボランティアネットワークに先行して先遣隊を派遣していた(社)シャンティ国際ボランティア会、および全国曹洞宗青年会と

連携し、十日町市、小千谷市、長岡市と精力的に現地調査を重ねていました。被災地では温かい食べ物が必要とされていること、十日町市より、むしろ小千谷市、長岡市でその必要性が高いこと、炊き出しに使用する食材は新潟総合生協が 3000 食分のトン汁ができるだけ提供していただけること、などが報告として上がってきました。

翌 28 日夜、先遣隊から、東災ボが活動する拠点と、宿泊地を確保できたという報告を受け、ボランティアバスの手配、宿泊先との調整を急ぎ、10 月 29～31 日の 2 泊 3 日の日程で、活動先を小千谷市、長岡市、宿泊地を被災地より車で約 1 時間離れた新潟県高柳町に設定しました。被災地から離れた場所に宿泊地を設定したのは、連合東京 VST が旧来から交流があったということもありますが、何よりも、ボランティアが緊張を強いられる被災地での宿泊ではなく、活動が終わり次第、リラックスできる環境を用意するためでした。

ボランティア活動場所：新潟県小千谷市内、および長岡市内の避難所 / 地域

炊き出し食材：トン汁食材 3000 食分を新潟総合生協から提供

ボランティア宿泊地：「新潟県立子ども自然王国」

〒945-1505 新潟県刈羽郡高柳町大字高尾 30-33

TEL 0257-41-3355 FAX 0257-41-3515

<< ボランティア募集 >>

一方、事務局は、個人ボランティアを受け入れ派遣するか、東京災害ボランティアネットワーク参加団体内でのボランティア募集にするか、決断を迫られていました。結果としては、避難勧告が解除されていない被災地に個人ボランティアを派遣して負傷者、死傷者を出すわけにはいかず、責任を持ってボランティアを派遣できる東災ボ参加の各団体に、危険地域への派遣であることを告げ、ボランティアを募らせていただきました。

ボランティア募集：東災ボ参加団体内のみ

個人ボランティアの申し出は避難勧告の解除がされていないため、断ることにした

今回の活動が炊き出し中心になることを受け、東災ボ参加団体の連合東京 VST を通じ、調理師・栄養士の方々に、ボランティアとして参加可能か打診し、了承を得ることができました。学校給食の調理師や栄養士を中心に 4 名の方が参加し、栄養面と味覚面で被災者の方々を支援することができる態勢になりました。

また、東災ボ参加団体であるホームレスの自立支援団体「ふるさとの会」が、炊き出し資機材を提供してくださったのに加え、ホームレスと呼ばれる方も 7 名が炊き出し隊として参加していただきました。

<< 藤原紀香さんからの提案 >>

ボランティア派遣が翌日に迫った 10 月 28 日、(社)シャンティ国際ボランティア会(SVA)から「タレントの藤原紀香さんから支援物資(カイロ)の申し出がある」との連絡を受けました。ジャパンプラットフォームを経由し SVA へ、被災者の方々に支援物資を手渡しで渡してもらえる団体を探している、という問い合わせがきていたようです。

支援物資は、ただ送るだけでは、必要な時期に必要な物資が被災者の方に届かない可能性があります。藤原さんは、東京から被災者支援をおこなう団体に、自らの支援物資を託したいという申し出をしていました。

10 月 29 日に出発する旨を伝え、出発前に支援物資が東災ボ事務局に届くことを確認し、炊き出しとともに、藤原さんからの支援物資を直接被災者の方々に届けることにしました。

藤原紀香さんからの支援物資：ホッカイロ 3000 個 (3000 食の炊き出しと同数)

<< ボランティア派遣 >>

JR 池袋駅西口に集まった新潟中越地震支援ボランティアは計 55 名。現地に入っている数名の先遣隊を合わせるとその数は 58 名にも上りました。小型バス 1 台、中型バス 1 台を人員運搬車とし、港区職労、町田市職労、(株)ジェイアール東日本物流の各団体から提供いただいた 1BOX 車両を資機材運搬車とし、調査員用の車両 2 台と合わせ、総勢 7 台の車で、午後 3 時に東京を出発しました。

人員運搬車両	: 小型バス 1 台、中型バス 1 台
資機材運搬車両	: 1BOX 車両 3 台
調査員車両	: 乗用車 2 台

<< 第一次新潟県中越地震被災地支援活動 >>

現地での活動報告については、次ページ(P6)からの「第一次新潟県中越地震被災地支援活動報告」をご覧くださいと思います。なお、後半部(P10)には、ボランティア参加者からの報告を掲載してあります。

第一次新潟県中越地震被災地支援活動報告：P6～9

ボランティア参加者からの報告「新潟県中越地震災害ボランティア日記」：P10～13